

## 誕生祭教祖に捧げる祭文2

御存命の教祖の御前に慎んで申し上げます

今月十八日は教祖が寛政十年大和国三味田にお生まれ遊ばされてから丁度二百回目の御誕生日でございますので、その理を戴き、只今これの教会でも誕生祭を執り行い、一手一つに勇んで八交代でたすけつとめをお教え通りつとめ了えさせて頂きましたので、御前に参進しお祝いの言葉を申し上げます。引き続き、こ教祖御誕生日まことにお芽出度うございます。引続き、これより慶祝大会並びに祝賀会を開催させて頂きます。

思えば教祖は人間創造の母胎としての魂のいんねんの上から全人類を可愛い我が子と思召され、四十一才より九十才に至るまで実に五十年に亘る長の年月、月日のやしろ」となつて口に筆に無い人間、無い世界をお創め下された元の理を明かされ、”この世治める真実の道”として時に荒波を渡る私達の人生航路の羅針盤をお与え下された許かりでなく、”ひながたの親”ともなつて如何なる厳しい苦難の中も神一条を貫き自ら歩んで陽気ぐらしの出来る通り方を、いと懇ろにお示し下さいました。更には私達子供の成人をひたすら望まれ、二十五年先の御寿命を縮められ、やしろの扉を開き、肉体の拘束を越えて末代かけての世界救けにお働き下さつております。しかし私達はついつい我が身我が家の思案が先に立ち、世界並同様の日常生活となり、何時しか教祖が遠くなつて、折角お引寄せ頂いた御期待に添いかねている申訳なきを今更の如く痛感致しております。

今日の吉き日、改めて”ひながたの道より道無いで”と仰せられて御言葉を心に体し、日々かしもものかりものの感謝を深め、なつてくる一切に喜べる境地を学び、何時でも何処でもひのきしんの実践に励み、成程の人なくてはならぬ人となつて地域社会に神名が流れ、教祖がお待ち下さるおぢばへ、周囲の人々を次々に御案内させて頂けるよう真実の限りを傾けて参りますが、どうか教祖、かく誓う私達を心ゆくまでお導き下さいますよう一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。